

大津企業景況調査報告書

(第40回)

平成20年 1月～ 3月期 実績

平成20年 4月～ 6月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成20年1月～3月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
建設業	20社	18社	90.0%
製造業	10社	10社	100.0%
卸売業	10社	10社	100.0%
小売業	30社	26社	86.7%
サービス業	30社	28社	93.3%
合計	100社	92社	92.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成20年1月～3月期とし、調査時点は平成20年3月10日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index(景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

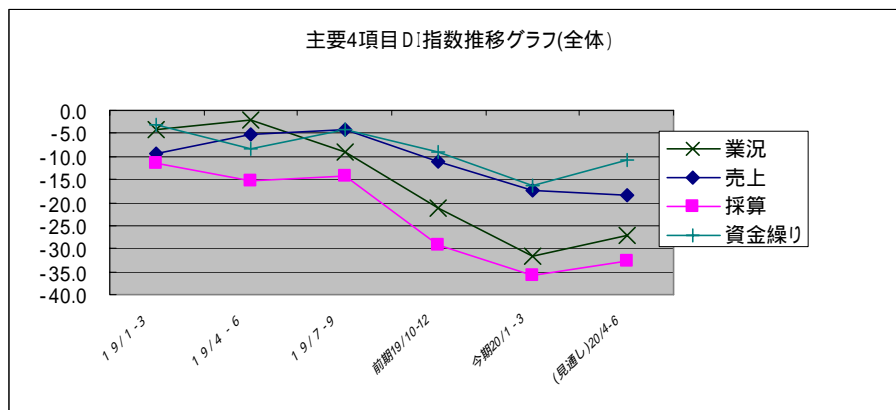
景況感、悪化一段と

平成20年1月～3月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数(景気動向指数)を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

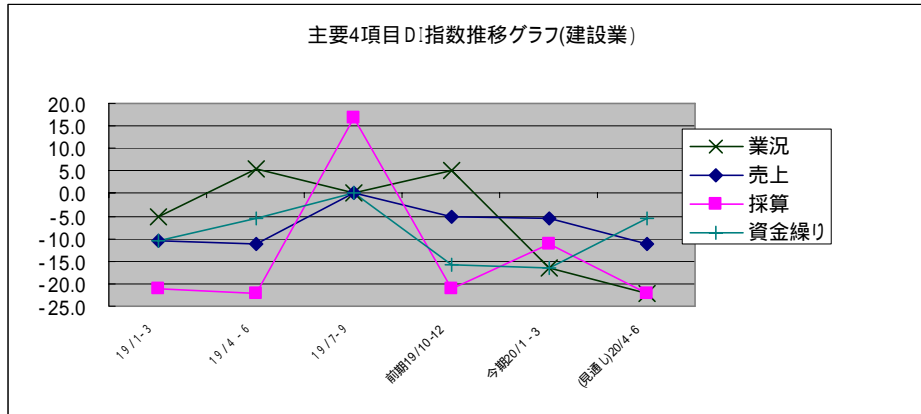
景況感は前期には悪化傾向を示していたが、今期は悪化傾向が一段と強まってきた。全体のDI指数をみると「業況」指数(「好転」-「悪化」)は、前期の21から今期31とマイナス幅が拡大し悪化している。「売上」指数(「増加」-「減少」)も11から17と売上減少が続いている。「採算(経常利益)」指数(「好転」-「悪化」)は29から35にさらに悪化した。ただし「採算(経常利益)水準」指数(「黒字」-「赤字」)はプラスで採算は何とか確保している。「従業員」指数(「不足」-「過剰」)は+12から+15とプラスが続いているのは、労働力が中小企業に回らないための人手不足とみられる。「資金繰り」指数(「好転」-「悪化」)は9から16へと悪化が続いている。このように悪化傾向が強まったのは、原油など輸入原材料が値上がりしているのに、販売価格に転嫁できない中小企業が多いことや人手不足が中小企業経営を圧迫しているためとみられる。

業種別にみても全業種で景況感が悪化している。



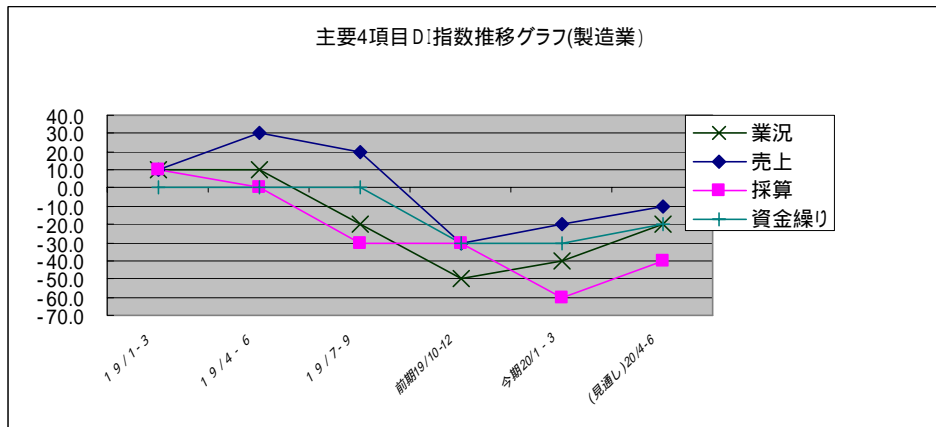
建設業

DI 指数をみると「業況」は前期の+5(好転)から今期 17(悪化)となり景況感は悪化した。「売上」が前期の 5 が今期も 6 と減少が続き、「採算」は 21 から 11 と悪化が続いている。「従業員」は前期+11 から今期+39 と人員不足はさらに顕著である。「資金繰り」は 16 から 17 と悪化が続いている。「取引の問合せ」は 11 程度で推移し低調である。



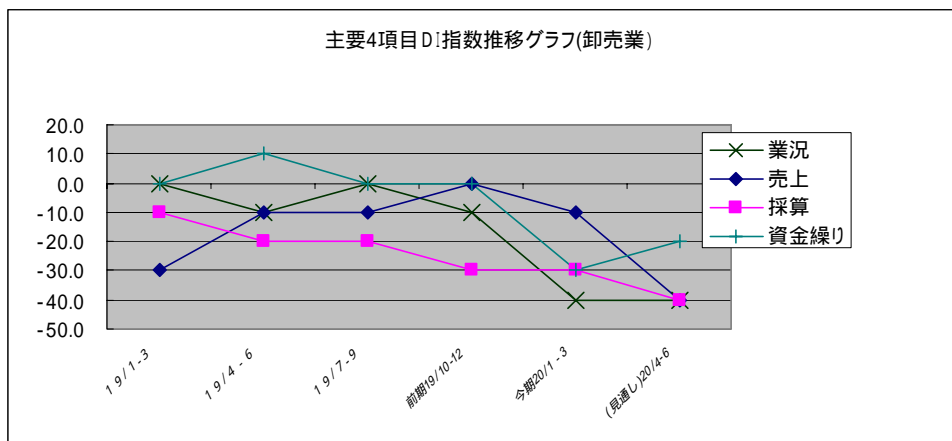
製造業

DI 指数をみると「業況」は前期 50(悪化)が今期も 40 と悪化が続いている。「売上」が 30 から 20 と減少が続き、「採算水準」は+40 から+50 とプラス(黒字)で推移しているが、「採算」は 30 から 50 と悪化が続いている。「従業員」はやや不足(+10)から 0(不変)となっている。「資金繰り」は 30 で悪化している。業況の悪化は原材料高をなかなか販売価格に転嫁できないことが主な要因とみられる。



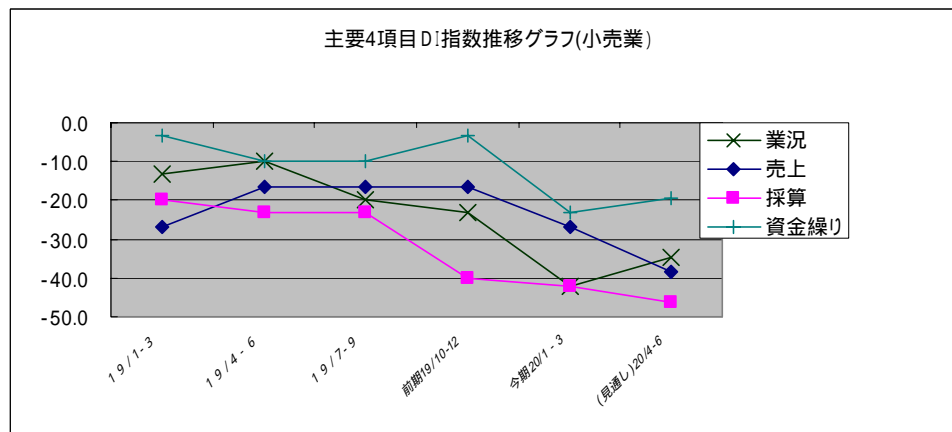
卸売業

DI 指数をみると「業況」は前期の 10(悪化)から今期 40 と悪化傾向が強まった。「売上」は前期 0(横ばい)から今期 10 でやや減少した。「採算」は前期、今期とも 30 で悪化が続いている。「資金繰り」は 0(不変)から 30 と悪化し、「資金調達」もやや厳しくなっている。「従業員」は業種の中で唯一マイナス(過剰)となっている。



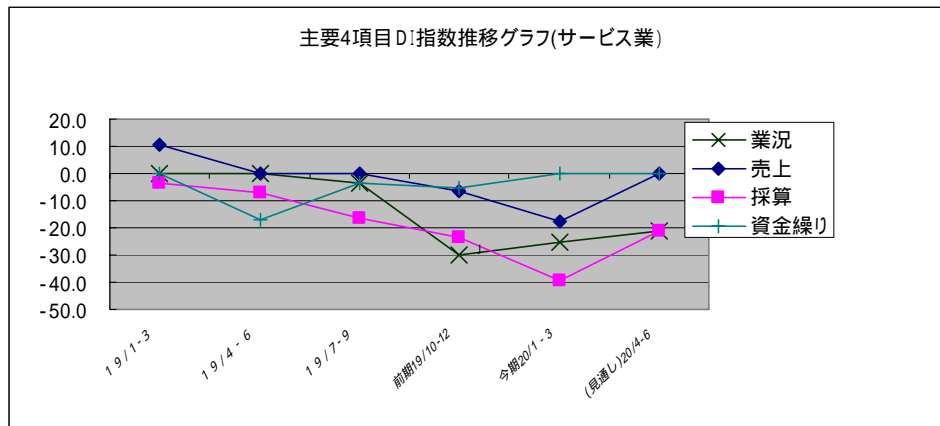
小売業

DI 指数をみると「業況」は前期の 23 から今期 42 と悪化傾向が一段と強まっている。「売上」は 17 から 27 とさらに減少し、「採算」が 40 から 42 と悪化傾向が止まっていない。「取引の問合せ」は 23 から 35 と低調に推移している。「従業員」は +17 から +15 と人員不足が続いている。「資金繰り」は 3 から 23 と悪化しており、「資金調達」も厳しい状況である。



サービス業

DI 指数をみると「業況」は前期 30 (悪化)から今期は 25 と悪化傾向が続いている。「売上」は前期 7 から今期 18 と減少が続いており、採算水準は黒字を維持しているものの「採算」は 23 から 39 と悪化が続いている。「従業員」は+17 から+14 と人員不足感が継続している。「資金繰り」は 5 から 0(不変)となり、資金調達面はまずまずである。



今の経済情勢に対する意見は、「アメリカ経済の急減速の影響懸念」、「原材料・燃料等の価格上昇をどこまで販売価格に転嫁・吸収できるかが課題」、「人材の確保難」など地方経済、特に小規模事業者の実態は厳しいので、経済対策を望むという声も依然として多い。一方で、「大津地域の活性化は5年、10年前に比べ、進んでいる」という意見もあった。

現在、日本経済は円高、株安、原材料高の三重苦に直面している。そして今後日本経済は持ち直すのか、後退に向かうのかの岐路に立っているとされている。

こうした中、来期の見通しについて、本調査では、全体に「業況」は悪化傾向が続くという見方が多い。「売上」は減少し、「採算」は悪化し、「従業員」の不足傾向は続くともている。業種別にみるとすべての業種で悪化傾向が続くが、製造業では業況の悪化度合いが縮小する見込み。小売業、サービス業も同様の見込みである。建設業は業況の悪化度合いが増す見込み。卸売業では悪化度合いは今期並みの見込みである。

来期の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合が 23%で、特に製造業では 70%が計画している。設備投資の中味は設備更新投資が 52%と多く、生産力増強投資が 14%、合理化・省力化投資が 10%である。今後の景気にかかわらず計画通り投資を行うとする企業が 65%であるが、景気により見直すとする企業が 17%あり、慎重な動きが出てきた。

(中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は11社であった。

- ・アメリカの影響で想像以上に悪化するのではないか。
- ・先は読めません。特に中国・インドは不明。
- ・ガソリンの値上げ、中国食材輸入の悪化、国内食品メーカーの倫理の欠如、食品業界へのメディアの過剰なバッシング等、我々は何によって生かされているのか、日本の国民は全くわかっていない。
- ・原材料、包装材、燃料等全ての仕入れに価格上昇が見られ、どこまで売価への転嫁、または吸収できるか当面の課題。
大津地域の活性化は5年前、10年前と比べ、進んでいる。
- ・商店街にある店舗として今後郊外大型店の出店、地域のつながりの希薄化等により、ますます不採算部門になりつつある。
- ・アルバイトが集まらない(大学生、専門学校生)。
- ・生活必需品が全て値上がりしているので、政治の対応が待たれる。
- ・財布のひもが堅く開かない感じです。デジタルテレビの販売など買替えなさってます。
- ・燃料、原料の値上げ、人材の確保難。超大型店の出店ラッシュが表向き景気の良い様な錯覚に陥るが、実態は非常に困難な状況ではないか。
- ・見通しは下降線である。
- ・コストの削減を吟味することなく、安かったらよいといった捉え方で、強い立場の者が弱い立場の者に強要して、上から下に押し付け、適正価格が通用しない現状があることをよく耳にする。そういったことが、頑張っても利益の出ない状況を生み多くの中小・零細企業が苦しんでいる、閉塞した経済状況を作っているのではないかと思われる。

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し
全 体	31	27	17	18	35	32
建 設 業	16	22	5	11	11	22
製 造 業	40	20	20	10	60	40
卸 売 業	40	40	10	40	30	40
小 売 業	42	34	26	38	42	46
サービス業	25	21	17	0	39	21
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し	10-12月期 動 向	1-3 月期 見通し
全 体	6	3	22	22	15	10
建 設 業	16	11	11	11	38	11
製 造 業	50	40	20	10	0	0
卸 売 業	0	10	0	20	10	20
小 売 業	15	15	34	34	15	15
サービス業	7	14	28	25	14	21
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全 体	16	10	12	12	6	12
建 設 業	16	5	16	16	11	22
製 造 業	30	20	10	0	10	0
卸 売 業	30	20	20	20	10	20
小 売 業	23	19	11	11	7	11
サービス業	0	0	7	10	0	7
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

大 津 商 工 会 議 所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1500

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>